

秋は全国各地で様々な秋祭りが催され、大勢の観客でにぎわう。また地域の人々が待ち望んだ一年で最も楽しみな行事でもある。

三戸町で開催される「三戸秋祭り」は江戸時代に始まる由緒正しき祭りである。

元々は三戸大神宮の祭礼だが、昭和42年（1967）から、同心町と六日町にある両熊野神社が加わり、なつてから定着したとされ、



大正14年の三戸秋祭り
(三戸町立歴史民俗資料館蔵)

基本的に町内会単位などで出されるが、必ずしも町の人口規模に比例する台数が出されているとは限らない。

中核をなしていた。（以下、三戸町立図書館蔵「三戸大神宮御祭礼行列之事」より）

まず、「鳶のものを三十人」、その後には周辺の町村から「鳥舞」、「獅子舞」、「御神楽」、「杵舞」、「駒踊」、「勸人踊」、「剣盃踊」、「太神楽」など賑やかな踊りが続く。

山車は、四輪の自動車のシャーシを利用し、2階には作り山が乗せられ、1階部分では三味線弾き・笛・

主役は何といつても町内の

江戸時代の祭礼道具は現存しており、このうち、屋

部分では三味線弾き・笛・

「屋台」（かつぎ屋台）で、

（宝暦11年＝1761年、制作）、屋台に飾られた弁

三戸秋祭り

相馬 英生

（県史編さん調査研究員・

三戸町立図書館）

小太鼓などが置かれる。2

の御供」が四・五十人。最

代に至るまでの、山車や祭

人形・桜・藤・松・紅葉・

後から二番目の三十九番目

りの様子を撮影した写真も

菖蒲などが飾られる。明治

期には高さを競う山車が流

する。

行したが、大正3年（19

通常、神社の例大祭に行

料を活かして再現された祭

14）に電線が引かれ、高

われる神輿渡御の付祭り

り、時を忘れ酔いしれる

さが制限されると、山車の

として、山車は運行されるが、

のも一興ではなからうか。

最上部を折りたたむことが

三戸では神社行列に山車が

先行する点の特徴となつて

できる「どんでん」が発明

いる。

（参考文献「八戸三社大

された。

また、宝暦11年（176

戸市教育委員会 2002）

一方、江戸時代は、三戸

1）、町の住人から三戸大

祭文化財調査報告書」八

大神宮の神輿渡御が祭礼の